

# [ 目 次 ]

2000・2

ページ

<b>SKYLIGHT</b> 〈今月の焦点〉	銀河形成問題の行方 ～宇宙論から位置天文まで～	郷田直輝	60
<b>EUREKA</b> 〈研究紹介〉	大質量星形成領域における化学組成	池田美穂	72
	活動銀河中心核をとりまくガスの構造 —真の中心核はどこか—	澤田聡子	80
<b>天球儀</b> 〈読物〉	世界最強の日食中継ボランティア	尾久土正己	86
<b>短期連載</b>	どうなる？これからの天文学研究環境のゆくえ (第2回)「当事者から眺めた PD・OD問題」	今井裕	93
<b>追悼</b>	蓬茨靈運先生の逝去を悼む 蓬茨靈運先生の思い出		99
<b>シリーズ</b>	《海外研究室事情(2)》 Physics Department, University of Durham 英国ダーラム大学物理学教室	児玉忠恭	102
<b>寄贈図書</b>			104
<b>月報だより</b>			104
<b>星空市場</b>			110

## [ 表紙説明 ]

天の川を我々の銀河系にみたてた模擬図。太陽系の位置を仮に定めて、そこからの位置天文（アストロメトリ）の観測によって、太陽系からどこまでの範囲でどの程度のことか分かるかを記してある。例えば、ヒッパルコス衛星によって得られた観測データの場合、星の年周視差による距離測定が10%の誤差以内で得られている領域が黄色い円で示されている。また、今後の高精度アストロメトリ観測で、もし10万分の1秒角の精度で星の年周視差や1年あたりの固有速度が測定できた場合、距離測定が10%以内の誤差、固有速度が1km/s以内の誤差になる領域も各々示してある。  
(SKYLIGHT 参照)

(表紙デザイン：三宅洋子)